



# 子ども

異物をのみこんだり、すぐに転んだり、子どもには危険がいっぱい。そんな事故を防ぎ、創造性を育むよう工夫した「子ども目線」の製品が少しずつ広がっています。子どもに優しいデザインは、だれにとっても優しいのです。(石村裕輔)

ちゅー、ちゅー、ちゅー。川崎市の主婦山田佑子さん(30)の腕で、生後8カ月の長女紗花ちゃん(仮名)がぐいぐいでミルクを飲んでいました。口にはいるのは吸い口が斜めについた哺乳瓶。写真①。佑子さんは「頭を立てた状態でミルクをあげられるので、飲みやすいみたい」。

「ドクターベッタ哺乳瓶」といい、社員10人のズームティー(東京)がつくる。30度の角度をつけて赤ちゃんが母乳を飲む

## 事故防止に一役 創造性育む

### 子どもに優しいデザイン

姿勢に近づけた。ミルクが内耳に流れ込む危険を減らしたという。空気の泡も減り、ゲップでの吐き戻しも少なくなるそうだ。02年に販売を始めたが、最近売り上げが伸びている。きっかけはキッズデザイン賞だ。

この賞は子どもの安全や創造性の育成につながるデザインを表彰。61の企業のほか自治体やNPOなどが加わるNPO法人・キッズデザイン協議会が1作年から運営し、経済産業省も協力する。毎年大賞1点、金賞6点を含む百数十点を選ぶ。哺乳瓶は初回の金賞の一つだった。

例えば、セーフティーキャップ付き授乳瓶(金鶴製作所・東京)は写真②。子どもが開けようとしてもふたがカラカラと音を立てて空回り。ふたを押しながら回さないと開けられない。副審査委員長の山中龍宏・緑園こどもクリニック院長は「親がもっと気をつけてとよく言われるが、24時間注意するのは無理。目を離しても事故が起きない環境づくりが大事」。

他の受賞例でも、再現された銅鏡などを持ち出して染しめる博物館のキットや手に合わせてにぎりの形が変えられるスプーンなど、ユニークな製品が並ぶ(写真③～⑥)。

子ども用品だけではない。昨年は水にぬれてもやけどしない石灰乾燥剤(坂本石灰工業所・熊本)が金賞に。菓子袋などの石灰乾燥剤はぬれると300度もの高温になることもあり、誤って口に入れてやけどする事故などが絶えない。この製品はぬれても50度程度にしか発熱しないように石灰を加工してある。

指を挟まないよう配慮したドアや折りたたみいすもある。審査委員長の赤池孝・ユニバーサルデザイン総合研究所長は「子どもに優しいデザインはだれにとっても使いやすく安全。グッドデザイン賞のように育て、子ども目線のモノづくりが当たり前の中にならば」と言う。



- ③九州国立博物館学校貸し出しキット「きゅうばっく」(福岡県立アジア文化交流センター、トータルメディア開発研究所)博物館の展示物を持ち出すという発想の学習支援キット
  - ④「ウィル・スリー」(コラボ・新潟)グリップに形状記憶ポリマーを使った。70度以上のお湯で軟らかくなり、20度以下の水につけると固まる
  - ⑤腰掛けても倒れない「ワンタッチプール200」(ジャクエツ・福井)ビニールプールのサイド部分に新素材を使って不安定さをなくした
  - ⑥衣服内温度計「らん'sナイト」(キューオーエル・長野)基礎体温計の代わりに、服につけて寝るだけで衣服内の温度が測れる
- (②と④～⑥はキッズデザイン協議会、  
③はトータルメディア開発研究所提供)